

書面審査 自己評価調査票

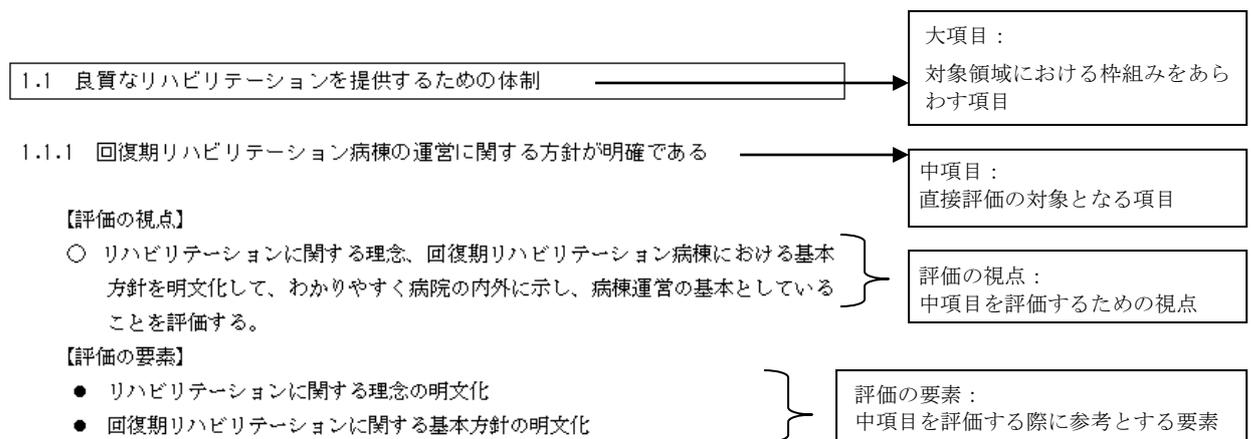
(付加機能評価 リハビリテーション機能 (回復期)) Ver. 3.0



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

【ご回答いただくにあたって】

- 院内で十分に合議したうえでご回答ください。
- 自己評価の対象項目は中項目です。各中項目の下に、中項目を評価するための視点（評価の視点）と、評価する際に参考とする要素（評価の要素）を記載していますので、これらを参考に中項目を評価してください。



- 中項目は4段階で評価します。それらは次のような評価結果を表します。
 - S：秀でている
 - A：適切に行われている
 - B：一定の水準に達している
 - C：一定の水準に達しているとはいえない
- 各項目で求められている事項が、貴院の役割や機能から考えた場合に必要ない（当該事項が行われていなくても妥当である）と考えられる場合には、“NA（非該当）”を選んでください。（NA=Not Applicable）
- 該当する自己評価結果について、○で囲んでください。
- 最終ページには自由記載欄を設けています。貴院が特に取り組まれている点や課題と認識されている点などがあれば、ご記入ください。

目 次

1	良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	
1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	1
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	3
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	
1.3	質改善に向けた取り組み	5
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	7
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	
1.4.2	在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している	
1.4.3	在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	
2	回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性	
2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	9
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	11
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	13
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	

- 2.3.2.P 理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている
- 2.3.3.P 理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している
- 2.3.4.P 理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる
- 2.3.1.0 作業療法士は役割・専門性を発揮している
- 2.3.2.0 作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている
- 2.3.3.0 作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している
- 2.3.4.0 作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる
- 2.3.1.S 言語聴覚士は役割・専門性を発揮している
- 2.3.2.S 言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている
- 2.3.3.S 言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している
- 2.3.4.S 言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる
- 2.4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮・・・・・・・・・・ 17**
 - 2.4.1 社会福祉士は役割・専門性を発揮している
 - 2.4.2 社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている
 - 2.4.3 社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している
 - 2.4.4 社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる
- 2.5 回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮・・・・・・・・・・ 19**
 - 2.5.1 関連職種は役割・専門性を発揮している
 - 2.5.2 関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている
 - 2.5.3 関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している
 - 2.5.4 関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる
- 3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践**
 - 3.1 初期評価とリハビリテーション計画の立案・・・・・・・・・・ 21**
 - 3.1.1 初期評価を適切に行っている
 - 3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している
 - 3.2 専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施・・・・・・・・・・ 22**
 - 3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している
 - 3.2.2 リハビリテーションの進捗状況を共有している
 - 3.3 多職種による課題の共有と対応・・・・・・・・・・ 23**
 - 3.3.1 定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている
 - 3.3.2 新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している
 - 3.4 在宅復帰に向けた多職種による協働・・・・・・・・・・ 24**
 - 3.4.1 在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている
 - 3.4.2 在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

1.1 良質なリハビリテーションを提供するための体制

1.1.1 回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- リハビリテーションに関する理念、回復期リハビリテーション病棟における基本方針を明文化して、わかりやすく病院の内外に示し、病棟運営の基本としていることを評価する。

【評価の要素】

- リハビリテーションに関する理念の明文化
- 回復期リハビリテーションに関する基本方針の明文化

1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 理念・基本方針を実現するために、多職種からなる専門職の適切な人員配置が行われていることを評価する。

【評価の要素】

- リハビリテーション科専門医等の配置
- 看護師の配置
- 看護補助者の配置
- 療法士の配置
- 社会福祉士の配置
- その他関連職種の配置

1.1.3 リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- リハビリテーションチームを構成する各種専門職の人的資源を活用して、良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織体制とその運営を評価する。

【評価の要素】

- 病棟運営における管理責任者の役割の明確化
- 回復期リハビリテーション病棟の組織体制
- 病棟運営会議の設置
- 効果的・効率的なサービス提供のためのスタッフの勤務体制

1.2 安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み

1.2.1 患者の安全確保に向けた体制を整備している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- リハビリテーション部門や回復期リハビリテーション病棟における、医療安全を組織的に推進する体制が整備され、必要な活動が実践されていることを評価する。

【評価の要素】

- 回復期リハビリテーション病棟における安全管理担当者
- 訓練治療用機器の点検整備と衛生管理の体制
- 安全確保に向けた情報収集と再発防止策等の検討
- 安全確保に向けた教育・研修
- 回復期リハビリテーション病棟で発生頻度の高い事象への具体的対応

1.2.2 患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 患者の急変時や緊急時への対応方針と手順の整備、および研修や訓練が適切に行われていることを評価する。

【評価の要素】

- 訓練等におけるリスクの把握と管理
- 病棟や訓練時に起こりうるリスクに対する手順の作成と周知
- 訓練や評価時の患者の安全性への配慮
- 教育・研修の実施

1.2.3 安全で安心できる療養環境の整備に努めている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 回復期リハビリテーション病棟における安全で安心な療養環境の整備状況を評価する。

【評価の要素】

- 医療関連感染を予防するための療養環境の整備
- 患者の離院・離棟防止、部外者の侵入防止などの保安
- 車椅子・歩行器等の安全に配慮した点検・整備と衛生管理
- 病室・廊下・トイレ・洗面所・浴室・食堂の安全性
- 障害に対応したコール装置

1.3 質改善に向けた取り組み

1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 回復期リハビリテーションの質改善に向けたデータ収集・集計の仕組みが確立しており、その分析・評価が行われていることを評価する。

【評価の要素】

- 退院時サマリーの作成
- データ収集・集計の仕組み
- 情報の管理体制と責任者
- 収集したデータの分析・評価
- 分析結果の活用や公表
- 退院後のフォローアップ評価

1.3.2 回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 回復期リハビリテーションに関する自院の運営上の課題を把握して、改善に向けた対応策を検討していることを評価する。

【評価の要素】

- 運営上の課題の把握
- 対応策の立案と実施
- 対応策の見直しと修正

1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 回復期リハビリテーションに関する体系的な教育・研修を行っており、各職種の専門性や多職種によるチーム力を高める仕組みがあることを評価する。

【評価の要素】

- 体系的な教育・研修
- 計画的な研究活動
- 専門性を高める仕組み
- チーム力を高める相互啓発・研鑽に向けた取り組み

1.4 地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み

1.4.1 急性期病院と円滑に連携している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 回復期リハビリテーション病棟としての役割を果たすために急性期病院と円滑に連携していることを評価する。

【評価の要素】

- 地域の急性期を担う医療機関に関する情報の把握
- 地域の医療機関への情報の発信
- 入院患者の円滑な受け入れ
- 急性疾患発症時の迅速な連携
- 退院時に急性期病院（紹介病院）へのフィードバック

1.4.2 在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 自宅や居宅施設などへの退院後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて、地域サービス機関等と円滑に連携していることを評価する。

【評価の要素】

- 退院後のリハビリテーション・ケア継続のための仕組み
- 担当ケアマネジャー等、地域サービススタッフとの連携
- 退院後の生活状況を把握する仕組み

1.4.3 在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて病院や施設等と円滑に連携していることを評価する。

【評価の要素】

- 地域の医療機関や介護福祉施設等の情報収集と把握
- 地域の医療機関や介護福祉施設等との連携と調整

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

2.1 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮

2.1.1 医師は専門的な役割・機能を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける医師の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 原疾患等に対する医学的な検査と診断
- 再発や合併症のリスクの評価と対応
- 機能障害やADL能力の回復予測
- 個別的なリハビリテーション処方と看護ケア指示
- 他診療科との連携

2.1.2 医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 医師が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、医学的な観点から指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活状況の把握
- リハビリテーションの進捗に関する患者・家族への説明
- 原疾患の再発防止や合併症の予防に関する患者・家族への説明と指導

2.1.3 医師はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 医師が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- 個々の患者に対する総合的なチーム目標の立案
- 協働に向けたスタッフ指導とチームビルディング
- 患者の病態に応じた医学的視点からのスタッフへの指導・支援

2.1.4 医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 医師が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 回復期リハビリテーションの質の維持・向上に向けたスタッフへの指導・支援
- 業務改善活動への協力
- 自己研鑽としての教育・研修活動に関する実績
- 研究活動への取り組み

2.2 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮

2.2.1 看護・介護職は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける看護・介護職の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 健康状態、ADL、療養環境の評価
- 生活状況の評価・分析
- 看護・介護の計画と実践
- 医療機器・介護器具の活用

2.2.2 看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 看護・介護職が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の評価と介入
- 退院後の生活を踏まえた指導・支援
- 家族・介護者への指導・支援

2.2.3 看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 看護・介護職が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- ケアの実践に必要な他職種からの情報収集
- ケアに関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働によるケアの実践

2.2.4 看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 看護・介護職が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 看護・介護の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

2.3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2.3.1.P 理学療法士は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける理学療法士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 運動機能の検査の実施
- 運動・動作の評価・分析
- 理学療法の計画と実践
- 補装具・移動補助具などの活用

2.3.2.P 理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 理学療法士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の評価と介入
- 退院後の生活を踏まえた指導・支援
- 家族・介護者への指導・支援

2.3.3.P 理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 理学療法士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- 理学療法の実践に必要な他職種からの情報収集
- 理学療法に関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働による理学療法の実践

2.3.4.P 理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 理学療法士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 理学療法の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

2.3.1.0 作業療法士は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける作業療法士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 生活状況の把握
- 生活機能の評価と分析
- 作業療法の計画と実践
- 自助具・補助具などの活用

2.3.2.0 作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 作業療法士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の評価と介入
- 退院後の生活を踏まえた指導・支援
- 家族・介護者への指導・支援

2.3.3.0 作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 作業療法士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- 作業療法の実践に必要な他職種からの情報収集
- 作業療法に関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働による作業療法の実践

2.3.4.0 作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 作業療法士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 作業療法の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

2.3.1.S 言語聴覚士は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける言語聴覚士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- コミュニケーション能力の検査・評価・分析
- 摂食・嚥下機能の検査・評価・分析
- 言語聴覚療法、摂食・嚥下療法の計画と実践
- コミュニケーション機器などの活用

2.3.2.S 言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 言語聴覚士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の評価と介入
- 退院後の生活を踏まえた指導・支援
- 家族・介護者への指導・支援

2.3.3.S 言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 言語聴覚士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- 言語聴覚療法や摂食・嚥下療法の実践に必要な他職種からの情報収集
- 言語聴覚療法や摂食・嚥下療法に関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働による言語聴覚療法や摂食・嚥下療法の実践

2.3.4.S 言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 言語聴覚士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 言語聴覚療法、摂食・嚥下療法の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

2.4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮

2.4.1 社会福祉士は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける社会福祉士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 個々の入院患者のニーズの把握
- 患者のニーズに適した社会資源の把握
- 継続的な相談対応と援助・支援の実践
- 社会資源の活用

2.4.2 社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 社会福祉士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な援助・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の把握と支援
- 退院後の生活を踏まえた援助・支援
- 家族・介護者への援助・支援

2.4.3 社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 社会福祉士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- 患者・家族の援助・支援に必要な他職種からの情報収集
- 患者・家族の援助・支援に関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働による援助・支援の実践

2.4.4 社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 社会福祉士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 援助技術・支援の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

2.5 回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮

2.5.1 関連職種は役割・専門性を発揮している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- チームにおける各関連職種の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- 管理栄養士
- 薬剤師
- 義肢装具士
- その他（臨床心理士、歯科衛生士など）

2.5.2 関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 各関連職種が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 病棟など院内での生活の評価と介入
- 退院後の生活を踏まえた指導・支援
- 家族・介護者への指導・支援

2.5.3 関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 各関連職種が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- チーム目標設定への協働
- 関連職種の専門的な介入の実践に必要な他職種からの情報収集
- 関連職種の専門的な介入に関連する情報の他職種への発信
- 多職種協働による関連職種の専門的な介入の実践

2.5.4 関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 各関連職種が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 関連職種の専門的な介入の質の維持・向上に向けた取り組み
- 業務改善活動の実践
- 自己研鑽としての教育・研修活動の実績
- 研究活動への取り組み

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

3.1 初期評価とリハビリテーション計画の立案

3.1.1 初期評価を適切に行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 患者の全体像が生活機能モデル（ICF）などの利用で把握されており、標準的な方法により評価され、多職種で共有されていることを評価する。

【評価の要素】

- 健康状態や傷病に関する評価
- 心身機能・構造に関する評価
- 活動・参加に関する評価
- 環境・個人因子に関する評価

3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 初期評価に基づいたリハビリテーション計画が多職種で協議・立案され、患者・家族に説明されていることを評価する。

【評価の要素】

- 入院早期のカンファレンスの開催
- 患者の生活機能の把握と課題整理
- 患者・家族の意見・要望を反映した方針・目標の設定
- 包括的で具体的なリハビリテーション・ケア計画の立案
- 患者・家族への説明と意向確認

3.2 専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施

3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 質が高く安全なリハビリテーション・ケアが各職種の協働によって適切に行われていることを評価する。

【評価の要素】

- 入院当日からの実施
- 必要な量のリハビリテーション・ケアの実施
- 質の高いリハビリテーション・ケアの実施
- リスク評価を踏まえたリハビリテーション・ケアの安全な実施
- 日常生活の自立に向けたケア
- 個別リハビリテーション時間以外のリハビリテーション・ケア介入の工夫

3.2.2 リハビリテーションの進捗状況を共有している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- リハビリテーションの最新の進捗状況をスタッフ間で共有する仕組みがあり、患者・家族へも伝えられていることを評価する。

【評価の要素】

- 実施当日の患者情報の把握
- 評価結果やケア・訓練状況の記録
- 他職種への情報伝達
- 患者・家族への連絡・相談

3.3 多職種による課題の共有と対応

3.3.1 定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 定期的な情報共有を通じて、個々の患者の新たな課題の評価・検討を多職種のチームで行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 定期的なチームカンファレンスの開催
- 必要に応じた臨時・専門カンファレンスなどの開催
- 到達度に応じた目標の更新と入院期間の設定
- 目標達成に向けた、多職種による具体的な介入についての検討
- カンファレンス記録の活用と共有
- カンファレンスの内容の患者・家族への説明

3.3.2 新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 個々の患者の新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを多職種のチームで実践していることを評価する。

【評価の要素】

- 定期的なチームカンファレンスで見直されたリハビリテーション・ケアの実践
- 臨時・専門カンファレンスなどで把握された新たな課題に対する個別の介入

3.4 在宅復帰に向けた多職種による協働

3.4.1 在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 在宅復帰とその維持に向けて必要な患者固有の課題について、具体的な評価と検討を多職種のチームで行っていることを評価する。

【評価の要素】

- 在宅復帰後の患者の ADL 目標
- 家族・介護者等の介護能力などの評価
- 退院前の家屋評価
- 外出・外泊による評価
- 退院後の生活スケジュールや余暇活動の検討
- 在宅復帰難渋など困難事例へのチームとしてのチャレンジ

3.4.2 在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている

自己評価	S	A	B	C	NA
------	---	---	---	---	----

【評価の視点】

- 在宅復帰とその維持に必要な診療、リハビリテーション・ケアが継続的に提供されるように具体的な課題解決への取り組みが行われていることを評価する。

【評価の要素】

- 獲得された ADL の維持のための患者・家族等への指導・支援
- 基礎疾患や合併症等の医学的管理・ケアや生活指導の継続への配慮
- 家屋改修や福祉用具の使用に関する助言・指導・支援
- 医療・介護・福祉関係者への情報提供と協力
- 社会資源の活用

貴院が特に取り組まれている点や課題と認識されている点などがあれば、ご記入ください。（自由記載）